

等の天井高さを合わせて高くし、階高の妥当性をアピールするべきである。

・・・・・・断面図に大きな天井懐の空白がないようにする。

●無柱空間と構造種別

構造種別はRC造、SRC造、S造の中から選択されるが、その要因は、建築コスト、耐久性、耐火性、居住性、などの他、大空間となる事務室及び展示室における無柱空間を指示されているか否かが直接要因となる。そのパターンは以下の4つに分類される。

- 展示/無柱指示無、事務室/指示無 課題1・・・・・・RCが有力
- 展示/指示無、事務室/指示有・・・・・・SRCが有力
- 展示/指示有、事務室/指示無 課題3・・・・・・一部平屋パターンであれば、RC+一部S梁が有力
・・・・・・内部配置パターンであれば、RC+一部PC梁が有力*

*展示室の上部梁をプレストレストコンクリートとし、柱を抜く、その際、事務室についても同処置により同所の柱を抜き、PC梁の中央に上階の柱を置かない。

また、「経済性」などの設計条件がなければ、全体をSRCとする方法も可能である。

- 展示/指示有、事務室/指示有 課題2,4,5・・・・・・SRCが有力

なぜ、事務所ビルの実務ではS造が最も多いのに、4つのパターン解答に出てこないのか
たとえば、今年のセンター発表に「耐力壁等の配置」について明記されているため、単純ラーメン又はブレースによる補強手段しか持たないS造の優先順位が下がることとなる。
しかし、仮に、設計条件で「経済性」「建築コスト」「軽量化」といった文言が入れば、S造の可能性が浮上する。・・・・・・課題5：ここではSRC+（梁部S）で対応した。

●耐力壁とその配置

平面配置：X，Y方向それぞれに構面数の1割以上を目安としてバランス良く配置する。ただし、試験の規模においては、構面数が20～30の場合がほとんどであるため、小数を繰り返した3ケではバランスを保ちにくく、4ケで考えた方が安定的である。

配置としては、中央部より外周、外周より角部の方が、ねじれに対する効果が高い。

立面配置：立面的には、各階同位置に連続配置を基本とするが、例外として下図のような配置が認められる。

| | | |
|-----|-----|-----|
| | | |
| | | |
| 開口 | 耐力壁 | 開口 |
| 耐力壁 | 開口 | 耐力壁 |

1階と基準階では動線、開口位置が異なるため、同じ位置での耐力壁が取れない時、応用できる。

耐力壁の開口：耐力壁1構面の面積に対し16%を上限として、開口が認められる。